

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型通所支援事業所リアンジュ		
○保護者評価実施期間	令和 8年 3月 9日		～ 令和 8年 3月 19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	令和 8年 3月 9日		～ 令和 8年 3月 19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 23日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	入浴設備(特浴、個浴、ユニバス、リフト浴、移乗用リフター)の充実。	個人の身体状況や出来る出来ないに応じた入浴方法を選択している。また、児童によっては自身で洗身洗髪を行う等自立に向けた取り組みとして入浴を実施している。	基本的な入浴介助や、個人個人の身体状況に応じた配慮など適宜カンファレンスを行い統一した介助方法となるよう周知を図る。
2	車椅子やバギーを使用し身体介助や、医療的ケア、重症心身障害児等、介護ニーズが高い児童の対応ができる。	在宅での様子を踏まえた生活スタイルや児童各々の身体状況に応じた介助方法についてご家族と情報共有し出来る限りニーズに応えられるよう努めている。	事業所の様子を見学する機会や保護者を設けることで自宅や利用に際する困りごとやニーズを聞き取り、また、ご家族同士のコミュニケーションの機会を設けることで相互尊重を育む。
3	同法人内事業所を社会資源として活用できる。	同法人の他事業所にて地域の方を交えた行事に参加し、利用者同士や地域の方の交流会を定期的の実施している。	実施することに対して責任感を持ち達成感を味わえるよう、相手が喜びを感じられるような活動を児童同士で企画し実行する。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	看護職員の確保に努め、医療的ケア児や重症心身障害児のケアの充実を図る。	医療的ケア児を受け入れする為の体制強化。	配置要件に応じたライフワークバランスの調整。
2	就労支援に向けたプログラムが少ない。	身体介助や、医療的ケア、重症心身障害児等、介護ニーズが高く、将来的に生活介護や入所などを検討する児童が多くニーズそのものが少ない。	就労支援に関する情報収集や各児童の将来的な希望に応じて習得する必要がある事項についてどのような支援方法があるのか等、各関係機関とも連携を密にしていく。
3	運転業務に係る職員の確保を行うとサービス提供時間外には事業所にて電話対応等が難しい状況。	事業所の固定電話のみでしか連絡手段がないこと。	事業所PCにおいてGメールやアプリの活用を検討していく。